

# 第4章 施策の方向性

## 基本方針1 農業所得の向上

頻発・甚大化する自然災害や新型コロナウイルス感染症の拡大など、農業の持続性を脅かす様々なリスクに対応し、岩見沢市農業の振興と持続的な発展を図るため、生産性の向上や農作業の効率化、最先端技術を活用したスマート農業の普及促進、また、地域特性を考慮しながら、国の「みどりの食料システム戦略<sup>※23</sup>」の方向性と足並みを揃え、環境に配慮した農業生産活動の実行による安全・安心な農畜産物の生産など、農業所得を向上させる施策を推進します。

### 施策1 持続可能な生産体制の確立

#### (1) 地域特性を活かした生産性向上と農業振興

##### ① 土地利用型農業の推進

広大な農地を活用した土地利用型農業を推進するため、水稻・小麦・大豆などを中心とし、その地形や土壌条件に合わせた作物や品種の選定による輪作体系の確立により、生産性の向上や農作業の効率化、コスト縮減などの取組みを総合的に進め、農業所得の向上を図ります。

##### ② 新規作物導入による空知型輪作の確立

水稻直播を取り入れた3年輪作（水稻・小麦・大豆）に、てん菜、なたね、デントコーンなどの第4の輪作作物を組み込んだ空知型輪作体系の普及を促進し、生産性の向上を図ります。

##### ③ 多様な高収益作物（露地・施設）の生産による所得確保

野菜・花き・果樹などの高収益作物を組み入れた複合経営を推進するとともに、機械収穫などの新しい技術の導入による労働生産性の向上や、契約栽培により所得確保につながる加工トマトなどの産地化に向けた取組みを進めます。

##### ④ 農業試験圃における品種・栽培技術の検証

基幹作物における品種比較や施肥・防除効果の検証、新品目の試験栽培などにより、栽培技術の普及・定着を推進し、新しい技術の体系化や品質・収量の向上を図ります。

##### ⑤ 農・食・健康を連動させた農業振興

「健康経営都市宣言<sup>※24</sup>」を踏まえ、大学や関係企業・団体等との連携のもと、岩

※23 みどりの食料システム戦略… 持続可能な食料システムの構築に向け、中長期的な観点で、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組みとカーボンニュートラル等の環境負荷軽減の取組みを推進する政策方針。農林水産省が令和3年5月に策定。

※24 健康経営都市宣言… 「人もまちも元気で健康」をテーマに、地域の健康管理の目的を「医療や介護予防」から「健康で生きがいを持って暮らせる地域創出」へと変革させていく考え方。岩見沢市は特定非営利活動法人 健康経営研究会により平成28年6月に全国の自治体として初めて認定された。

見沢市の地域特性や優位性を活かしながら、農・食・健康を連動させた取組みを推進します。

## (2) 土づくりの推進

### ① 土壌診断による適正施肥

農業技術情報施設を活用した土壌化学性<sup>※25</sup>分析に基づき、適正な施肥設計による土づくりやコスト縮減、環境負荷の少ないクリーン農業<sup>※26</sup>を推進します。

### ② 物理性分析による土壌改善

土壌物理性<sup>※27</sup>分析データの活用により、圃場の透・排水性改善や堆肥など有機物の投入促進を図り、作物の根圏域が広がることによる収量・品質の高位平準化により、農業所得の向上を目指します。

### ③ 循環型農業の推進

耕種農家で栽培された飼料作物を畜産農家へ、畜産農家から堆肥を耕種農家へ還元する耕畜連携の取組みにより、循環型農業を推進します。

また、南光園処理場で生産される下水由来肥料による、リン・窒素分の土壌還元と、稲わらなど有機質の腐熟促進効果を活用した、資源循環型の農業を推進します。

## (3) 環境と調和した安全・安心な農産物の生産

### ① 環境保全型農業の推進

環境保全型農業直接支払制度<sup>※28</sup>を活用し、化学肥料・化学合成農薬の低減や、地球温暖化防止、生物多様性の回復など、自然環境保全に配慮した安全・安心な農産物の生産を推進します。

### ② クリーン農業の推進

自然環境にやさしいクリーン農業技術の導入を図り、化学肥料・化学合成農薬の使用を必要最小限に留め、安全・安心で高品質な農産物の生産を推進します。

### ③ 農業技術情報活用による適期防除・収穫等の実施

農業気象サービスや関係機関・団体から提供される営農情報を活用した病害虫発生予察による適期防除や品目の分散化による適期収穫の徹底により、高品質作物の生産を推進します。

### ④ 農業生産工程管理（GAP）の普及促進

農産物の安全性の向上などを図るため、関係機関・団体と連携のもと、農業生産工程管理（GAP）<sup>※29</sup>を促進し、消費者や実需者の信頼確保に努めます。

※25 土壌化学性 …………… 土壌のpHやCEC（養分の保持能力）、可給態窒素、塩基（カルシウム、マグネシウム、カリウム）の状態など、作物の生育に直接的に関係する各種性質。

※26 クリーン農業 …………… 農業の自然循環機能を維持・増進させ、環境との調和に配慮した安全・安心で品質の高い農産物の生産を進める取組み。

※27 土壌物理性 …………… 土壌の硬度や通気性、保水性、排水性、作土の深さなど、根の伸長の難易や根への水分、養分、酸素の供給に関係する各種性質。

※28 環境保全型農業直接支払制度 …… 農業者が化学肥料・化学合成農薬の5割以上の低減を行うとともに、より環境保全効果の高い営農活動を支援する制度。

※29 農業生産工程管理（GAP） …… Good Agricultural Practiceの略称。農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組み。

## (4) 安全・安心な畜産物の供給

### ①畜産経営の体質強化

良質で低コストな自給粗飼料の利用拡大を推進し、特に耕畜連携により耕種農家から供給される自給粗飼料を有効利用することで労働力の負担軽減が図られ、労働力の再配分により、子牛事故率の低下や受胎率の向上など飼養管理の充実や飼養頭数の増頭へつながる取組みを進めます。

### ②飼養衛生管理の徹底

家畜伝染病に関する情報を適切かつ迅速に提供することにより疾病の発生予防を図るとともに、家畜保健衛生所など関係機関と連携のもと飼養衛生管理基準<sup>※30</sup>の遵守について徹底指導を行うなど、家畜飼養者の自衛防疫体制の強化を図ります。

### ③計画的な予防接種の推進

各種予防接種の実施を推進するとともに、ワクチン接種費用の支援を行うなど、家畜伝染病の発生予防を図ります。

### ④酪農ヘルパー事業への支援

通年拘束性の強い酪農経営の特殊性に対応するため、酪農家の疾病・事故発生時などの療養や冠婚葬祭等の休日取得の際、代わりに給餌や搾乳などの飼養管理を担う酪農ヘルパー事業への支援を行い、酪農経営の安定と生活環境の向上を図ります。

## (5) 鳥獣被害防止対策の推進

### ①有害鳥獣捕獲活動の推進

猟友会並びに丘陵地鳥獣害駆除対策連絡会等の協力を得て、継続的に銃器や捕獲ワナによる駆除を行うとともに、鳥獣被害対策実施隊との連携のもと、有害鳥獣捕獲活動を推進します。

また、捕獲従事講習会や狩猟免許取得の啓発など、狩猟者の担い手確保に向けた取組みを推進します。

### ②有害鳥獣侵入防止対策の推進

侵入防止柵の設置に対する支援を行うなど、有害鳥獣の侵入防止対策の充実と農作物への被害防止に努めます。



※30 飼養衛生管理基準 …………… 各農場において疾病の発生を予防するため、畜種ごとに家畜伝染病予防法に規定された家畜の所有者が遵守すべき基準。

## 施策2 農畜産物の付加価値向上と販路の確保

### (1) 地産地消と消費拡大の推進

#### ①地産地消の推進

地元の農畜産物及び農産加工品を積極的に取り扱う地産地消協力店の周知や拡大を推進するとともに、市内各所に開設されている農産物直売所のPR支援などを行い、地域で生産された農畜産物を地域で消費する地産地消を推進します。

#### ②消費拡大の推進

岩見沢市農産物消費拡大推進協議会を中心として、市内外におけるPRイベントを開催し、安全・安心で美味しい岩見沢産農畜産物及び農産加工品の認知度向上に努め、消費拡大を推進します。

また、学校給食や食育授業を通じて、児童・生徒等の食に関する知識などを向上させるとともに、岩見沢市農業への理解や地場農畜産物の利用拡大を推進します。

### (2) 農畜産物の付加価値向上の推進

#### ①農畜産物の付加価値向上とブランド化の推進

農家や農家グループによる地場農畜産物を活かした特産品の開発などを支援し、付加価値向上及びブランド化に向けた取組みによる農業所得の向上を図ります。

特に、実需から高い評価を受けているキタノカオリ小麦については、関係機関・団体と連携のもと、いわみざわブランドを確立し、市内外を問わず「キタノカオリ＝いわみざわ」との認知が広がる取組みを進めます。

#### ②ヴィンヤード及びワイナリーによる農業振興

ワインの産地化による魅力ある農業・農村を実現するため、新規ワイナリーの創業支援やヴィンヤード<sup>※31</sup>の進出・拡大、観光など産業間の連携による農業振興を推進します。

### (3) 企業との協働による生産、商品開発及び販路拡大の推進

#### ①企業との協働による生産、商品開発

企業との協働による販売先を確保した上での新たな農畜産物の生産や既存作物の生産拡大、付加価値向上及び商品開発などの取組みを推進し、農業所得の向上を図ります。

#### ②企業との協働による販路拡大

産学官金連携のもとそれぞれが持つ技術や資源の有効活用を図り、新たな生産・流通・販売体制を構築し、販路拡大を推進します。

※31 ヴィンヤード …………… 醸造用ぶどうを生産する農場。

## 施策3 スマート農業の加速化

### (1) スマート農業の普及促進

#### ①スマート農業の普及促進

岩見沢市の地域特性であるICT環境及び各種データの活用により、農作業の見える化、農業技術の継承、業務改善・効率化、品質・収量の向上、コスト縮減に向けたスマート農業機器の普及及び利活用を促進します。

### (2) デジタル技術を活用したスマート農業の推進

#### ①最先端技術活用による次世代型農業の推進

農業従事者の高齢化や労働力不足などの課題に対応するため、ロボット・AI<sup>※32</sup>、IoT<sup>※33</sup>、ビッグデータ<sup>※34</sup>等のデジタル技術をはじめ、産学官連携による5G<sup>※35</sup>、Beyond 5G<sup>※36</sup>等の最先端技術を活用した自動運転農機の遠隔監視制御の社会実装など、次世代型農業の実現に向けたスマート農業の取組みを推進します。

## 施策4 農業生産基盤の整備

### (1) 土地利用型農業に対応した基盤整備の推進

#### ①農業生産基盤整備の推進

岩見沢市農業の持続的な発展に向けて、農地の大区画化・汎用化、水管理の省力化、電子台帳の導入など、土地利用型農業に対応する農業生産基盤の整備を推進します。

### (2) 農業水利施設等の整備、維持管理の推進

#### ①圃場排水性、用水機能の確保

農業経営の安定と農業所得の向上に向けて、圃場排水性確保と用水の安定供給を図るため、適切な農業水利施設等の整備と維持管理を推進します。

※32 AI …… Artificial Intelligenceの略称で、人工知能のこと。学習・推論・判断といった人間の知能の持つ機能を備えたコンピュータシステム。

※33 IoT …… Internet of Thingsの略称で、モノのインターネットのこと。世の中に存在する様々なモノがインターネットに接続され、相互に情報をやり取りして、自動認識や自動制御、遠隔操作等を行うこと。

※34 ビッグデータ …… ボリュームが膨大でかつ構造が複雑であるが、そのデータ間の関係性等を分析することで新たな価値を生み出す可能性のあるデータ群。

※35 5G …… 第5世代移動通信システム。1～4Gに続く、携帯電話などに用いられる高速データ通信を実現する移動体通信の規格。

※36 Beyond 5G …… 5Gの先の高速データ通信技術。1～5Gに続く、将来の移動体通信システム。6Gともいう。

## 基本方針2 担い手の育成・確保

地域農業を支える人材として、認定農業者をはじめとした担い手の育成・確保、農業経営の法人化、多様な人材が活躍できる施策を推進します。

### 施策5 農業経営の安定・発展

#### (1) 次世代に向けた多様な担い手の育成・確保

##### ①意欲ある担い手の育成

地域の合意形成のもとに作成した人・農地プランに位置付けられた地域の中心となる経営体や認定農業者などが主体性と創意工夫を発揮した経営を展開できるよう関係機関・団体と連携し、経営管理能力の向上や経営改善の指導・助言など各種支援を実施します。

##### ②農業経営の法人化の推進

地域における雇用の創出や生産コストの縮減、経営管理能力の向上など安定した農業経営を確立するため、法人化のメリットや手続き、経営管理等に関する情報の提供などを行い、農業経営の法人化を推進します。

##### ③収入保険の加入促進

収入保険は、自然災害や価格下落などの経営努力では避けられない多岐にわたる農業の不安定リスクに対応することから、関係機関・団体と連携のもと、PRや加入促進を図り、農業経営の安定化による担い手の確保に努めます。

##### ④女性農業者が活躍できる環境づくり

地域の農業を発展させていく上で女性の経営参画は重要な役割を果たすことから、女性農業者の活躍に向けた啓発を通じて、各種協議会委員への登用を図るなど、女性農業者の地位向上や能力を発揮できる環境づくりを推進します。

また、多様な視点を活かした農業経営を進めるため、情報の提供や講習会などの取組みを推進します。

#### (2) 労働力の確保と農業経営支援組織の育成・確保

##### ①多様な人材による労働力の確保

農業従事者の減少・高齢化による労働力不足に対応するため、関係機関・団体と連携のもと、都市住民や他産業従事者、農福連携<sup>※37</sup>及び外国人の活用など多様な人材による労働力の確保を図ります。

##### ②コントラクターの充実

地域農業を維持・発展させるため、耕起、播種、防除及び収穫などの栽培管理や堆肥散布などの圃場管理を請け負うコントラクター組織など農業経営を支える組織の育成・確保を図ります。

※37 農福連携 …………… 農業と福祉が連携し、障がい者等の農業分野での活躍を通じて、農業経営の発展とともに、障がい者等の自信や生きがいを創出し、社会参画を実現する取組み。

## 施策6 新規就農者の育成・確保

### (1) 新規就農(希望)者の就農促進

#### ① 新規就農者受入活動の実施

関係機関・団体で構成する新規就農サポートセンターが中心となり、北海道農業大学校などとも連携し、新規学卒者やUターン者、新規参入希望者、法人就農希望者の就農に向けた啓発や相談活動を行うとともに、岩見沢市の魅力や農業への理解、就農意欲の高揚を図る短期農業体験を実施します。

#### ② 新規就農対策の充実

新規学卒者やUターン者、新規参入者が、農業知識・技術及び経営能力の習得を目指す研修の実施、また、就農準備段階から就農直後までの初期投資の軽減に向けて継続した支援を行うなど、地域の幅広い関係者と連携のもと、就農後の定着に重点を置きながら、新規就農対策の充実に努めます。

## 施策7 優良農地の確保・利用集積

### (1) 農地利用集積の促進

#### ① 意欲ある担い手への農地の利用集積・集約化の促進

優良農地の確保とその有効利用を進めるため、農地中間管理事業<sup>※38</sup>や農地保有合理化事業<sup>※39</sup>、農用地利用改善事業<sup>※40</sup>などを活用し、人・農地プランによる地域の中心となる経営体や認定農業者など意欲ある担い手への農地の利用集積・集約化を促進します。

### (2) 遊休農地の発生防止と再生利用

#### ① 遊休農地の発生防止と再生利用

遊休化する恐れがある農地には、所有者への指導・助言や引き受け手との調整など発生防止に向けた取組みを行うとともに、再生利用が可能な遊休農地については、再生作業等における国の制度などを活用し、解消に努めます。

### (3) 計画的な土地利用の推進

#### ① 農業振興地域整備計画の適切な運用

農用地区域への編入や同区域からの除外の抑制、開発行為や農地転用の制限など、農業振興地域整備計画<sup>※41</sup>や農地転用許可制度の適切な運用を図り、計画的な土地利用を推進します。

※38 農地中間管理事業 …… 農地中間管理機構（(公財)北海道農業公社）が農地の出し手から農地を借受け、担い手がまとまりのある形で利用できるよう配慮して貸し付ける事業。

※39 農地保有合理化事業 …… 農地中間管理機構（(公財)北海道農業公社）が農地を出し手から買入れ、受け手に一時貸付後に売り渡す事業。

※40 農用地利用改善事業 …… 農用地利用改善団体が、地域全体の農用地の効率的な利用を図ることを目的として、集落の話し合いを基に、作付地の集団化や農作業の効率化、認定農業者への利用権設定等の促進を進める事業。

※41 農業振興地域整備計画 …… 優良な農地を確保・保全し、地域の農業振興を図るために必要となる事項を定めた市の計画。

## 基本方針3 農村地域の振興

農業・農村が有する地域資源の保全や防災・減災機能の確保など多面的機能の発揮、中山間地域の特性などを活かした農業振興、新たな人の流れにつながる都市と農村の交流に向けた農村地域の振興施策を推進します。

### 施策8 多面的機能の発揮促進

#### (1) 地域資源の保全管理の推進

##### ①地域資源の保全管理・質的向上

農業・農村が有する多面的機能の発揮促進を図るため、多面的機能支払制度<sup>※42</sup>を活用して岩見沢市広域協定による地域の共同活動を支援し、農地、水路などの地域資源の保全管理や質的向上を推進します。

#### (2) 防災・減災機能の継続性確保

##### ①農業水利施設等のストックマネジメント事業の活用

地域における実行可能な防災・減災機能の継続性確保に向けて、排水機場、基幹排水路、ため池、基幹揚水施設等を対象に、農業水利施設等のストックマネジメント事業を活用した、計画的な補修・改築などを実施します。

##### ②農業水利施設等の適切な維持管理

農業水利施設が有する防災・減災機能や自然環境の保全など多面的機能を十分に発揮させるため、流域治水<sup>※43</sup>の理念に基づく治水連携や適切な維持管理を推進します。

##### ③田んぼダムの推進

水田が有する雨水貯留機能の発揮により低地の浸水被害を低減させるため、多面的機能支払制度や農業生産基盤の整備を活用し、岩見沢市広域協定による「田んぼダム」の取組みを推進します。

#### (3) 農村地域の生活環境の向上

##### ①産学官連携の推進

農村地域での定住条件強化を図るため、各種インフラ整備、革新的技術の実証や利活用について産学官連携で推進し、農村地域の生活環境の向上に努めます。

##### ②地域の潤いと学びの場を提供

地域の潤いと学びの場の提供を図るため、岩見沢市広域協定で主催する研修会やイベントについて、多面的機能支払制度を活用し支援します。

※42 多面的機能支払制度 …… 多面的機能を支える地域資源の基礎的保全活動をはじめとした質的向上を図る共同活動や、施設の長寿命化のための活動を支援する制度。

※43 流域治水 …… 自治体や企業、住民など、河川流域に関わる者すべてで行う治水対策。従来のダム・堤防の活用に加え、遊水池・雨水貯留施設の整備、住宅地における水害リスクの情報共有や移転促進などがある。

## 施策9 中山間地域農業の促進

### (1) 中山間地域農業の振興

#### ①中山間地域の特性や優位性を活かした農業振興

中山間地域においては、地形や土壌の特性を考慮し、良質・良食味米の生産地域として、農家戸数の減少などにも対応し得る、密播<sup>※44</sup>や直播などの省力化技術を導入しながら、今後も水稻作付けを主とした農業を振興します。

また、平坦地域と比較して農業の生産条件が不利であることから、中山間地域等直接支払制度<sup>※45</sup>を活用し、農業生産活動の継続や多面的機能の確保などを維持します。

### (2) 中山間地域の活性化

#### ①中山間地域の特性を活かした地域振興

中山間地域には、四季の移り変わりとともに、癒しや安らぎを与えてくれる棚田<sup>※46</sup>や丘陵地などの景観、ヴィンヤードなど情緒ある農村風景を有していることから、その特性や魅力を活かし、イベントの開催などを通して地域の賑わいや活力向上に結びつく取組みを進めます。

## 施策10 都市と農村の交流

### (1) 農業・農村とのふれあいの場の提供

#### ①農村体験公園による都市と農村の交流

緑豊かな農村環境の中で、都市住民が農村体験を行いながら農業・農村を理解するとともに、地域住民との相互理解を深める場として設置している農村体験公園を活用し、都市と農村の交流を推進します。

### (2) 農産物直売所等による消費者との信頼関係の構築

#### ①農産物直売所等による消費者との信頼関係の構築

安全・安心で美味しい岩見沢産農畜産物の情報発信のほか、農家・農家グループにおける農産物直売所やファームレストランなどによる消費者との交流により、岩見沢産農畜産物の理解を深め、消費者との信頼関係の構築に努めます。

また、地場農畜産物の販売や加工体験などができる地域交流センターにより、都市と農村の交流や農村地域の活性化を推進します。

### (3) グリーンツーリズムの推進

#### ①グリーンツーリズムの推進

農村地域の豊かな自然環境や景観、地域で育んだ歴史や文化など多様な地域資源を活用した生活体験とそこに暮らす人々との交流を楽しむ農泊や農業体験など、地域が主体となった取組みを支援します。

※44 密播 …………… 苗箱1箱に播種する種もみの量を増やして苗箱数を減らすことで、田植え時の省力化と生産コストの低減を図る技術。  
※45 中山間地域等直接支払制度 …… 耕作条件の不利な中山間地域等において、担い手の育成等による農業生産の維持を通じて多面的機能の確保するための活動を支援する制度。  
※46 棚田 …………… 傾斜地に階段状に作られた水田。